



がスタートしました。菓子製造、袋詰め、箱折り作業、販売担当、経理担当など、11施設がそれぞれの「でかけること」を持ち寄り、総勢209人が力をあわせて製造・販売しています。今でこそ軌道にのりはじめた事業ですが、試験的に生産をスタートした2014年の夏はトラブルの連続でした。広域に散らばり生活するメンバーの送迎や支援のため、プロジェクトに充分な時間を割く余裕がないという施設や、研修に参加しても作業が高度すぎると断念する施設が続出。福島の施設だからこそ抱える問題や、メンバーのスキルの差がとても顕著にあらわれました。そこで、菓子製造など高度な作業はもともとパンやお菓子づくりなどをを行っている施設に、接客が得意な施設はPR担当に、としんせいがそれぞの長所をいかしたレギュ

レーションを構築。コーディネータが密に連絡を取り合い、円滑なコミュニケーションを実現することでプロジェクトは勢いを得て、今では県内外からオーダーがくるようになりました。

成功事例に学び 福島での仕事づくり を再構築する

エイブルアート・カンパニーは、ぱるぼろんプロジェクトに伴走するなかで、協働のプロジェクトの中核を担う組織とコーディネータを地域に移行していく重要性をあらためて感じました。必要なのは、現地の刻々と変化する状況をとらえる力であり、施設と密にコミュニケーションをとり人びとを巻きこんでいく力です。そこで2015年度

からはbotanippeのひとつつの解決策として、魔法のおかし・ぱるぼろんプロジェクトのコーディネータを担うしんせいをカウンターパートとして、もう一度プロジェクトを編みなおそうとしています。この福島における2つのプロジェクトは、地域に根ざし、プロセスを複数の施設で共有しながらひとつの商品をつくりあげる・価値を分けあうという、新しい福祉の仕事のあり方を示しています。そして、その成功的の鍵を握るのは、施設間の円滑なコミュニケーションと適切な役割分担を担う中間支援組織とそのコーディネータです。このノウハウはまだまだ途上ではあります、が、福島県のみならず、全国各地でもいかれるはずです。

